

ウェットランド、「様々な生物の聖域」は誰が守るのか？



きよみ野 1 丁目、消防署ときよみ野の間にウェットランドがあります。

埼玉県では住宅開発に際して調整

池の設置が義務付けられています。その調整池を活用して「湿地的な環境を創出して様々な生物の聖域（サンクチャリ）とした」のがウェットランドです。市のホームページを見ると、自然観察のための公園と位置付けられています。鬱蒼とした湿地で、とても静かで素敵な空間です。

年 2 回だけの除草で雑草が繁茂

ただとても残念なことに、きよみ野側の土手には雑草が繁茂し住民を悩ませています。イネ科植物アレルギーなどの健康被害も生じています。犬の散歩でウェットランドに入り込んだ方が雑草の中で方向を失い、漸くの事で出て来たというエピソードもあるそうです。

何度要望しても除草回数は年 2 回のみ。梅雨入り

前に 1 回と秋以降に 1 回なので、特に夏場は伸び放題。仕方なく住民の方が草刈り機とガソリンを自費で購入し、県土事務所の許可を得て除草している状況です（一級河川の土手の管理責任は埼玉県）。

県土事務所によると、県管理河川の土手の除草は年 2 回と決めているそうです。各地から回数を増やしてほしいとの要望が出されていますが、予算が取れないとのこと。県土事務所は市に対し、あと 1 回の除草をお願いできないか相談中とのことでした。

湿地の管理は誰がするのか？

6 月議会一般質問で問いました。市は昨年度県と協議し、除草とゴミ拾いなどの美化活動を共同で行ったとのこと。除草については「県が設置した施設であり、周辺の住環境に配慮した維持管理は県が主体となって検討すべき」と答えるのみでした。

県土事務所では、湿地部分の維持管理は市の責任と聞きました。しかし市の答弁は「県が管理しているものと認識している」でした。

「様々な生物の聖域」という素晴らしい概念の基に作られた施設が、管理責任者が曖昧なまま放置状態に置かれている事実が明らかになりました。



きよみの暮らし



◆6 月、川口市で母親のケアマネジャーが担当する女性の息子から殺害されるという痛ましい事件が起きました。息子には「ケアマネが母親お金をだまし取った」という思い込みがあったことや、息子も自殺を図ったことが報道されています◆日本介護支援専門員協会 の調査では、ケアマネジャーの 約 3 割 が過去 1 年間に利用者や家族から言葉の暴力や精神的な攻撃を受けた経験があると答えています。また 2022 年には訪問診療医が、母親の蘇生措置を拒んだことで息子に銃殺されるという事件も起きています◆私も訪問看護・ケアマネの仕事をする中で、幾度か怖い思いをしたことがあります。強烈な記憶として今も忘れられないのは、96 歳の母親が死んだら、当時私が所属していた法人が殺したと張り紙をしてやると迫られたことです。お母さんを大切に思う気持ちを分かりたいとは思いましたが、もしも本当にお母さんが亡くなった時には何をするかかわからない不安を抱きました◆初めて訪問して 10 分と経たないうちに、重大な犯罪を犯して長年刑務所に入っていたと打ち明けられた時も本当に怖いと思いました。自分は何をしでかすかわからない人間だと脅されているような気がしました。事実その人は気に入らないことがあるとあちこちで杖を振り回して暴れました◆訪問診療医も訪問看護師もケアマネもヘルパーも基本的にはひとりで様々な背景を持つご家庭に伺い、そこで信頼関係を築きながら支援をする仕事です。残念ながら、時には危険と隣り合わせとなり得る仕事です。介護保険制度が始まって四半世紀が過ぎました。働く人の安全をどう守るのか、とても大きな課題と感じています。



雪田きよみ

つわぶき便り

日本共産党吉川市議会議員
雪田 きよみ
住所：吉川市きよみ野 3 丁目
電話：090-5802-2516
e-mail:kiyomi.snow@mbr.nifty.com
URL:kiyomiyukita.com

旭小の統廃合は住民合意の基、慎重に審議を

吉川市では 2028 年度を目途に旭小学校と関小学校を統廃合する動きが進み、更にその後三輪野江小学校と栄小学校を統廃合する方向です。今年度予算には「小学校区審議会委員報酬」が予算化されました。その具体的な内容は、「旭小学校と関小学校を統合した際にどの範囲にスクールバスを走らせるか、どの範囲が徒歩通学可能かを審議する」との答弁でした。

6 月議会一般質問で問いました。

「どこでも市長」「市長キャラバン」は意見聴取・意見交換の場

市は「人口減少が進む中、子どもたちの教育環境について保護者や地域の方から不安を訴える声が多くなってきた。一昨年 12 月以降、『市長キャラバン』『どこでも市長』や地域行事などの機会をとらえて市長・教育長が地域に出向き、1 年以上かけて意見交換を行ってきた」「いただいたご意見を踏まえ、昨年 11 月の市長キャラバンで最も持続可能で現実的な方向性として、旭・三輪野江小学校をそれぞれ関・栄小学校に再編するとの案を示した」と説明しています。その後旭小学校保護者に対し書面で市の考えを説明、PTA との合同説明会を開催してきたとのこと。

市ホームページでは「市長キャラバン」は市民の意見聴取、「どこでも市長」は市民との意見交換の場と明記しています。市の重要な方針を決める場ではありません。そこで重大な市の方針が決まっていくというのは、理解しがたい話です。

教育委員会での審議は尽くされたか？

一昨年 12 月から市民と話し合ってきたと言いながら、市教育委員会で審議したのは今年 2 月になってからです。そしてその翌日、市の政策会議

に付議し共通認識を図ったとの説明です。

教育委員会は市長部局からは独立した組織であり、学校の設置や運営をはじめ、地域の教育行政全般を管理・執行する機関です。保護者や地域のご意見を踏まえた上で、市が目指す「個別最適化」「非認知能力の向上」という視点や小規模校のメリットとデメリット、市の教育大綱などの視点から一つ一つ丁寧に検討するべきではないでしょうか。教育委員会議事録からは、こうした様々な視点から検討した形跡はうかがえません。

子どもの意見表明権は尊重されたか？

子どもの権利条約第 12 条は子どもが自己の意見を自由に表明し、その意見が年齢や成熟度に応じて尊重される権利を保障しています。

6 月議会岩崎さゆり議員への市の答弁では、「市は今年 2 月、学校の良い所や困っているところを聞くため、教育長をはじめ教育委員会職員が旭小学校に赴き、一緒に給食を食べながら話をした。ジャージ姿で、できるだけざっくばらんに話ができるように心がけて出向いた。その際、統廃合の是非を問うような質問は投げかけていない」とのことでした。

「統廃合」について口を閉ざして子どもの意見を聞いたとしても、それは子どもの意見表明権を尊重したとは言えないのではないのでしょうか。



裏面に続く➡

地域の意見は尊重されているか？

6 月 24 日（水）、学区審議会が開催されました。メンバーは旭小・関小それぞれの学校代表・PTA 代表・学区市民の代表、学識経験者の 7 名です。

最初に旭小・関小の統廃合について話し合われました。旭小学校区の代表者は反対意見を述べ、地域

子どもの教育を大切にする旭小学校の歴史

2017 年に発行された「吉川市史 通史編 2」に記された、旭小学校の歴史を簡単にご紹介します。

「学制」の公布

1872 年（明治 5）8 月、日本初の近代制学校制度を定めた「学制」が公布されました。身分・性別に関係なく、全ての子どもたちを就学させることになりました。しかし「学制」では小学校に係る費用は地域が負担し、生徒からは授業料を徴収することとされたため、実際の小学校の創設・運営は地域によって様々でした。

吉川では吉川小学校・旭小学校・三輪野江小学校が 1873 年（明治 6）～1876 年（明治 9）に、それぞれ寺院などの敷地内に開設されました。

郁文学校

旭地区では 1873 年（明治 6）に郁文学校と川藤学校が、それぞれ東福寺（八子新田）と東泉寺（川藤）に開設されました。郁文学校の校名は勝海舟の命名であるとされ、「郁文学校」の書は 勝海舟が親しい間柄であった中村武敬氏を訪れたときに揮毫したものとされています。

郁文学校は中村氏が私財を投じてつくった学校で、敷地の中には宿舎もあったそうです。今も東福寺付近に「郁文学校」の碑が残されています。

1884 年（明治 17）には川藤学校は郁文学校の分校となり、上内川の普賢院にも分校が開設されました。明治 25 年（1892）



でも反対意見が多いと発言しましたが、この発言について話し合うことはありませんでした。すぐに多数決が取られ、賛成多数で可決してしまいました。全国でも小中学校の統廃合が進んでいますが、地域住民との合意形成が最も難しく、5～8 年を要していると言われています。吉川市が住民のみなさんと話し合ってきたのはわずか 1 年半です。もっと丁寧な合意形成が必要ではないでしょうか。

10 月 25 日、南広島（現在旭小学校が建っている場所）に新築した洋風の 2 階建て校舎に移転し、この日が旭小学校の開校記念日とされています。明治 35 年（1902）に南校舎 1 棟 2 教室を増設した際に榎が記念樹として植えられました。現在の総合的学習の時間の名称は「えのき学習」として位置づけられ、旭小学校のシンボリック樹木として今も生き続いています。

旭村の教育状況

1893 年（明治 26）郡書記復命書に、旭村の教育状況について以下のように記されています。

学校の設備は昨年中の新築により、校地校舎は適当で工具も整理されており、注意が行き届いている。

生徒試験の成績は及第が 9 割で落第が 1 割であり、生徒の出席状況は 9 割である。授業料を以前より低くしたため、納付義務があるために就学を避けている人はいない。

授業料を安く抑えて教育を大切にした、先人たちの姿勢が伝わってきます。

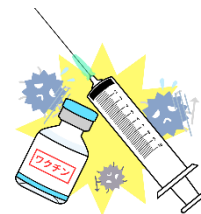
市の教育大綱は「家族を 郷土を愛し 志を立て 凜として生きてゆく」です。この教育大綱を大切に考えるなら、旭小学校の歴史をみんなで学び、少人数化が進む学校の今をどう考えるのか、大いに議論するべきではないでしょうか。

どんなことでも、
気軽にお電話ください。

090-5802-2516

生活
相談

HPV(子宮頸癌予防)ワクチン、フェアな情報提供を



HPV(子宮頸癌予防)ワクチン接種は、12 歳～16 歳の女性を対象に 2010 年からスタートしました。2013 年には一旦定期接種化されましたが、重篤な副反応により 2 か月でストップ、2022 年 4 月から積極的接種勧奨が再開しました。再開に際して、定期接種を受けられなかった 17～26 歳をキャッチアップ接種の対象としました。

感染予防のために健康な人に接種するというワクチンの役割を考えると、より安全性が求められます。摂取するかしないか、一人ひとりが自分の考えで決断できるような情報提供が必要です。6 月議会一般質問では、HPV ワクチン接種者への、市の情報提供について問いました。

大事なことが書かれていない

市はワクチンの効果・安全性・副反応のリスクをよく理解した上で判断していただけるよう、接種勧奨通知の中に国が作成したリーフレットを同封又は QR コードでのご案内を行っているとのことでした。しかしそのリーフレットには、重要なことが書かれていません。

➤ リーフレットには子宮頸がんの原因となる HPV に、「多くの女性が一生に一度は感染する」と書かれています。しかし 2013 年の 3 月 28 日の参議院の厚生労働委員会で健康局長は、感染率は 0.7%だと答えています。

➤ HPV は 200 種類以上あり、そのうち 15 種類が子宮頸がんを引き起こすと考えられていますが、ワクチンで予防できるのは多くても 7 種類に過ぎません。ワクチン接種をしても 100%予防できるわけではありません。

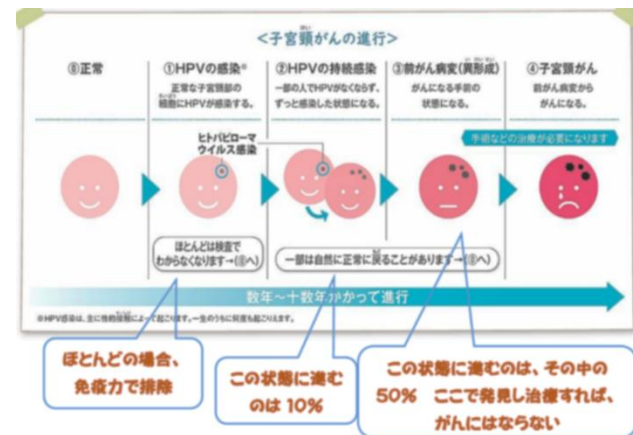
➤ HPV 感染以外でも子宮頸がん発症事例があることも報告されています。

こうした事実が書かれていません。

20 歳になったら子宮がん検診を

子宮頸がんの一番の特徴は「前がん病変」の段階で正しく治療をすれば、100%治る病気です。20 歳になったら子宮がん検診受診こそ重要な子宮頸がん予防法です。

それもリーフレットには書かれていません。



被害者たちは今も苦しんでいる

リーフレットにはワクチン接種後異常を示した人は 1 万人当たり 4 人、重篤な症状を示した人は 1 万人に 2 人と書かれています。

しかし 2013 年以前に接種して重篤な症状に陥った人の中には既に 30 歳を過ぎ、大学にも進学できず、就職もできないまま今も苦しむ人々がいます。その方々が今、全国で裁判を起こして闘っています。その事実も書かれていません。

プラスとマイナス、両方の情報提供を

ワクチン接種を推進する側の情報だけを提供するのでは、本当に正しい判断はできないのではないのでしょうか。推進者にとっては不利な情報でも、プラスとマイナスの両方を伝えるべきだと思います。

特に 10 年以上経て、今も苦しむ被害者の方々が起こしている裁判の話はとても重要です。

HPV ワクチンは接種対象者が 10 代の若い女性であることを考えると、重篤な副反応被害に苦しむ人はひとりでも少なくするべきだと思います。